



新議長・副議長

点で議論できると良い。議員個々の資質を高めるには、100ある力に対して120の負荷をかけること。目標値を常に少し高いレベルに置き実践していくことを進めたい。

笹木議長

議員個々の能力の差はあるのが当たり前。しかし、やる気の差は埋められる。一生懸命やるか、やらないかで周りの評価も変わってくる。「チーム議会」は前任期時にも目指したが、やらない人をリカバリすることではなく、全員がそれぞれ自覚を持ち活動するチームにしなければならぬ。選ばれて議員になったという自覚をしっかりと持ち、議員全体がもう一段階バージョンアップしていかなければならない。

質問

最後に、お二人から町民へのメッセージを

笹木議長

議員というのは、住民から距離を感じると見られがち、そう感じないような身近な議会にしていきたい。そのために様々な場面を企画、実践していくので、私たち11人の議員に気兼ねなく話をしてほしい。

安中副議長

片ひじ張らないで普段着で接しましょう。

ると思っていた方をガツカリさせてしまったのではと考えると、前定数等調査特別委員会の委員長として責任を感じているのが事実。

安中副議長

若いこれからの人に、初めて投票できる機会を失わせたことは残念に感じる。以前の研修会で、どうしても無投票になってしまつたときに、小選挙区制という方法があると聞いた。例えば町内をブロックに分けて、人口に応じた人数をブロックから選出する方法。今後、無投票をなくすと真剣に考えるのであれば、住民との意見交換の場でこのような考えを提案してみることも大切だと思う。

質問

今期4年の取り組むべき重点項目は？

笹木議長

各行政区で開催していた議会報告会

を「報告会」という形ではなく「意見交換会」という形で行いたい。また、各町内団体（大人から子供まで）との意見交換会を細かく実施していくこと。そして、議員間討議として議員個々の思いや情報収集した課題や疑問に感じることを型にはまらず協議する場を設けたい。また、委員会の垣根を低くした現地調査の実施や議会基本条例の必要性、議員選出の監査委員を設けないことこの精査も必要と考えている。

安中副議長

課題分析や問題提起に対しては大きな視点で物事を捉えていくことが大切。そのためには議員一人ひとりの質を向上していくことが重要と感じている。議員個々が力をつけることで、議員間討議もしっかり行えるようになる。そのことが議会全体のためになる。行政からの政策提案にも、議員の方で更に色を付けてあげるくらいの視

質問

議長、副議長になった抱負をお聞かせください

笹木議長

人口約6600人の中の11人と考えると、一人の議員には約600人の町民が乗っている。江戸時代の目安箱に例えると、私たち議員は目安箱の仲介人をチームでやっていかなければならない。議員個々が間違いや失敗を恐れず、のびのびと積極的に活動できる議会にしていきたい。

安中副議長

慢心や奢りなく、原点、初心に戻り、

